

住み続け、住み熟す ヴァインテージタウンをめざして



西神ニュータウン研究会世話人
笹原和喜男

神戸市の西方、西区に神戸市が開
発した西神^{せいしん}ニュータウンがある。

西神ニュータウンは、三つのニュー
タウンからなり、西から順に西神
中央地区(以下、西神中央)、西神南
ニュータウン(以下、西神南)、神戸
研究学園都市(以下、学園都市)と
呼ばれている。住み始めて22～33
年が経過し、合わせて約10万人、西
区民の4割が住むまちとなっている。

私の属する西神ニュータウン研究
会は、このニュータウンを主たるフ
ィールドとして、研究や情報発信を
進めてきた。この研究会の活動を、
西神ニュータウンの状況と合わせて
紹介したい。

西神ニュータウンの概況

神戸の街は、幕末の兵庫開港を契
機に、貿易や重工業を中心に発展し
た街である。

急激な都市化に対し、戦前、すで
に西部での新都市建設の構想があっ
たが、本格的な動きは昭和40年の神
戸市総合基本計画(マスタープラン)
で、「既成市街地への過度の人口や
産業の集中を防ぐため、神戸市の西
部に副都心的機能を持つニュータ
ウンを建設する」とされてからであ
った。新たに交通網を整備して、市街
地との結びつきを図る一方、工業等
の団地を隣接して設け、日本で初め
ての職住近接型のニュータウンを創
ろうとするものであった。

そうして実現したのが、南下する

明石川とその支流(榎谷川・伊川)の
間の丘陵地に、東西に飛び石状に並
ぶ三つのニュータウン……西神ニュー
タウンである。市の都心三宮から、
13～17kmの距離にあり、道路と神戸
市営地下鉄が市街地とを結んでいる。

就労の場として、街の中には特定
業務施設地区、隣接地には工業団地
等が整備され、現在、計230社ほど
が進出している。製造業においては、
ここ数年、西区が従業員数・出荷額
等において市で最大となり、工業団
地等の果たした役割は大きい。

ニュータウンの周辺は近郊農業が
盛んな田園地域で、能舞台のある神
社や中世建築のある寺院など古くか
らの寺社が点在し、歴史を感じさせ
ている。学校区や市民農園等を通し
てニュータウンとの関わりも深い。

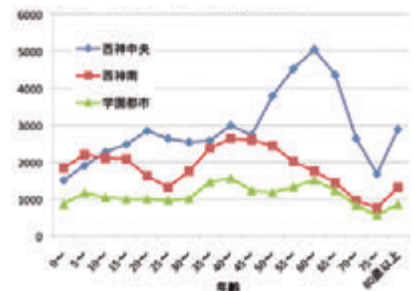
住宅については、共同住宅や戸建
て住宅に加え、低層接地形のタウン
ハウスが多いのが特徴である。共有
の道路や広場等と住宅が一体的にデ
ザインされ、調和のとれた町並み環
境を創りだしている。代表的なもの
に、和風タウンハウスやアメリカと
カナダの参加を得て造られた西神S
Vビレッジがある。

入居開始時期は10年程の差だが、
人口の状況は三者三様である。

西神中央は、入居33年を過ぎ、高
齢化の進行と若年者の減少が進み、
人口漸減状況になっていて、サブセ
ンターの空洞化も一部始まっている。



西神ニュータウンのエリア



西神ニュータウンの人口構成

学園都市は、賃貸住宅も多く、民間施設がマンションに建て替わったこと等もあり、高齢化が進む一方で、若年世帯も多い平準化された構成になっている。五つの大学のほか高専や専門学校等が集積して、13,000人以上の学生が学ぶ街でもある。

西神南は最も新しい街で、途中で事業区域が拡大したこともあって、若年世帯中心の構成を保っている。

西神ニュータウン研究会の活動

平成14年に、学園都市にある大学による共同の公開講座「西神ニュータウンの建設と歴史」が開催され、それを契機に、翌年設立されたのが、西神ニュータウン研究会である。

以来、12年にわたりニュータウンや周辺地域について学ぶため、講師を招いて研究報告や意見交換等を行う例会を月1回開催してきた。また、市民に、住んでいるニュータウンをよく知ってもらい、街に愛着や誇りをもってもらいたいとの願いを込めた取り組みも進めてきた。

ニュータウンに住む人から「ふるさと自慢」を募り、「西神ニュータウン・見所30選」をまとめたり、毎年1・2回、ニュータウン内外の見学会を開催してきている。

おもしろMAP

平成21年には、三つのニュータウンの特徴や街で見つけた創意工夫・風変わりなものなどを載せた「おもしろMAP」を作成した。西神中央を通っている子午線を表現した日時計やマンション内の道路側溝、パイオリンをかたどったマンションの中庭、ハートやスPEEDなどの形をしたトランプ交番、山上にあった高地



西神SVビレッジのまちなみ

性集落社や銅鐸の鋳型、カンポ広場のミニ版があるマンション、等60点以上を紹介している。

ニュータウン内の全小学校に、地域学習の資料として提供したところ、ある校長先生からは、子供たちが身近に歴史や街の個性を感じ、自分たちの住んでいるニュータウンはすばらしいと感じていると伝えられた。

ニュータウン人・縁卓会議

平成24年には、千里・泉北・高蔵寺・多摩・つくば・西神の六つのニュータウンが集まり、抱えているさまざまな課題について意見交換する「ニュータウン人・縁卓会議」を西神ニュータウンで開催した。各ニュータウンが持ち回りで開催しているもので、開催にあたっては、年を経たニュータウンならではの積み重ねを評価しようと、「ニュータウンからヴィンテージタウンへ～新しい地域文化の創造・まちを住み熟（こな）す～」と題して、シンポジウム等を行った。歳月を経て熟成された味わい深い街にという意味を込めている。

シンポジウムは、六つのニュータウン人に加え、西区で地域活動をしている人、ニュータウンで生まれ育った若者たちの計3部構成とした。

さまざまな地域活動や文化活動が紹介され、若者からもニュータウンに寄せる思いが披露され、魅力あるニュータウンへ向けての提案が出る



縁卓会議風景（2014年）

など、活発な意見交換が行われた。

25年度・26年度には、24年の趣旨を引き継ぎ、地元において活動している人々や地域活動を進めている学生等20を超える団体が集まり、活動紹介や意見交換等を行った。

各地でいろいろな活動に携わっている人たちが一堂に会し、他の活動の様子を知り、世代を越えて交流するよい機会となったのではないかと考えている。

ヴィンテージタウンをめざして

西神ニュータウンでは、高齢者等の生活を支援したり、環境を守るなどの多くの地域活動が見られる。近年は、学生たちが地域に出て、地域を支える活動も増えてきている。また、仲間と共に趣味に取り組む活動も盛んであるし、音楽会を催す等の活動も見かける。ジャズ好きの集まる店やケーキのおいしい店なども生まれてきている。

こうしたさまざまな活動がさらに盛んになり、網の目のように絡み合い、交流や連携が生まれ、愛着が育つことが、人が住み続け、街を住み熟す、ヴィンテージタウンにつながるのではないかと考えている。

笹原和喜男（さはら・わきお）

1947年福井県あわら市生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業、同大学院修了。71年神戸市に奉職、07年退職。一級建築士。共著書：『都市設計のための新しいストラクチャー』都市設計研究会編、鹿島出版会、1979年、『ツーバイフォー輸入住宅』神戸市住宅供給公社編、井上書院、1990年

西神ニュータウンの概要

西神中央地区 (634ha)	計画61,000人	現在約50,000人	1982年入居開始
西神南ニュータウン (415ha)	計画35,000人	現在約31,000人	1993年入居開始
神戸研究学園都市 (302ha)	計画20,000人	現在約19,000人	1985年入居開始